

IV 事業概要

1 学芸事業

【2 調査・研究, 収集・收藏・保管, 科学相談等】

(1) 調査・研究活動

① 東日本大震災自然環境調査事業

■ 自然豊かな蒲生干潟継続観察プロジェクト事業

東日本大震災の津波被害で大きくその環境が変わってしまった蒲生干潟について月に 1~2 回の間隔で、継続観察事業を行った。その成果を速報として広報した。平成 30 年度は 164 号から 184 号まで発行した。

<蒲生調査レポート 速報版の号数とタイトル；平成 30 年度発行分>

号数 発行日 速報版 タイトル

- 第 164 号 2018. 4. 11 蒲生干潟の地形調査⑫
- 第 165 号 2018. 4. 14 工事の進捗
- 第 166 号 2018. 5. 10 蒲生干潟の地形調査⑬
- 第 167 号 2018. 5. 10 蒲生干潟周辺の塩分濃度⑬
- 第 168 号 2018. 5. 12 通水部の変化の影響
- 第 169 号 2018. 6. 8 蒲生干潟の地形調査⑭
- 第 170 号 2018. 6. 9 順調なイシガレイの成長
- 第 171 号 2018. 7. 14 工事の進捗の影響
- 第 172 号 2018. 8. 3 蒲生干潟の地形調査⑮
- 第 173 号 2018. 8. 5 工事の生物への影響
- 第 174 号 2018. 9. 6 蒲生干潟の地形調査⑯
- 第 175 号 2018. 9. 8 潟湖内の生物の様子
- 第 176 号 2018. 10. 13 冬越しの準備
- 第 177 号 2018. 11. 8 蒲生干潟の地形調査⑰
- 第 178 号 2018. 12. 5 蒲生干潟の地形調査⑱
- 第 179 号 2018. 12. 16 カキから考える地盤の隆起
- 第 180 号 2018. 11. 10 生物は潜んでいる
- 第 181 号 2018. 1. 4 蒲生干潟周辺の塩分濃度⑭
- 第 182 号 2018. 1. 4 蒲生干潟の地形調査⑲
- 第 183 号 2018. 1. 13 稚魚の接岸はまだ



【蒲生調査レポート速報版】



【調査の様子】

<科学館研究報告>

以下の論文が平成30年仙台市科学館研究報告第28号に掲載された。

2011年東北地方太平洋沖地震津波後の蒲生干潟の地形変遷その8

中田晋・小山康宏

要約；2011年東北地方太平洋沖地震に伴って発生した津波によって、七北田川河口に広がる蒲生干潟はその姿を大きく変えた。震災後3年間で大きく変動したのち安定した干潟内部の汀線は、その後もほぼ安定な状態を保っていた。今回の調査では二つに大きく分断されていた潟湖が再び一つになったことも確認されおおむねその形は安定してきた。一方、導流堤通水部分付近の工事が進み、その姿は大きく変化した。また、河口付近では左岸・右岸とも堆積と侵食をくり返し砂州は変化し続けている。

蒲生干潟周辺の塩分濃度（2018）

小山康宏・中田晋

要約；蒲生干潟の潟湖内及び七北田川河口（11地点）の表層水の塩分濃度を調査した。調査の結果、塩分濃度について、潟湖内の塩分濃度は一様でないこと、同一の採水点でも一定の塩分濃度でないこと、塩分濃度が低い傾向にあった導流堤通水部分から遠い採水点（St. 1, St. 2）で冬季に3.1～3.3%の高い値となったこと、冬季に高い値を示す傾向にあった潟湖南部の塩分濃度が夏季でも高い値となったことが示された。

2011年東北地方太平洋沖地震後の蒲生干潟におけるイシガレイの成長（2018年度調査報告）

佐藤賢治

要約；蒲生干潟は2011年東北地方太平洋沖地震により大きな被害を受けた。地形も大きく変わり、そこに住む生物は多大なる影響を受けている。これまでの調査で、年により成長の早さに差は見られるものの、震災後もイシガレイは順調な成長を見せていた。しかし、これは七北田川河口域でのことであり、潟湖内で採集される個体は明確に減少している。この状態が今後どのように変化していくか、2018年度も引き続き調査・考察を行った。

2011年東北地方太平洋沖地震後の蒲生干潟におけるカニ類を中心とした生物の様子（2018年度調査報告）

佐藤賢治

要約；仙台市宮城野区の七北田川河口にある蒲生干潟は2011年東北地方太平洋沖地震により大きな被害を受けた。本レポートは2011年度から継続して調査した、カニ類を中心とした生物の様子をまとめたものである。